

# 山内 正博・百合子 夫妻（福井県勝山市）



山内夫妻とキク

・百合子氏は昭和51年、正博氏は昭和54年に就農。農作業のうち腕力が必要なものは正博氏が行うが、それ以外は夫婦共同で行っている。平成19年には家族経営協定を締結し、夫婦共同で農業経営改善計画の認定申請を行った。

・農業経営の中心となっているキク等の規格外品の有効利用を目的に、昭和54年に集落の農村婦人グループの仲間呼び掛け、直売所「大渡ふれあい市場」を開設。

現在は正博氏が代表となり、メンバーの協力を得ながら夫婦2人で二人三脚で運営している。

・キクを割安な価格で販売して看板商品となっているが、客のニーズに対応した野菜の栽培・販売をメンバーに勧め、実践してもらうことで野菜の売れ行きもよい。近隣の市のほか、石川・岐阜・愛知県からも来客がある。

・直売所の店番はメンバーが当番で行っており、客と親しくなることで農産物の作り甲斐を感じたり、客との対話からヒントを得て今後生産する品目を検討したりと、販売の経験が生産にプラスになっている。

・百合子氏は、昭和58年ごろ勝山市の女性中核農家10人で立ち上げた「あぜみち研究会」に参加し、イベントなどで地元の消費者に減農薬農産物を食べてもらい販売促進につなげるPR活動を、自らが中心となり行ってきた。



「大渡ふれあい市場」の外観（上）と福井県奥越産のいろいろな商品（下）

・昭和58年から県の食生活改善推進員として活動。平成11年度に県指導農業士に認定され、奥越地区指導農業士会の副会長、県の役員（理事）を務め、後進の育成に努めた。

また、平成16年から現在まで勝山市の農業委員を務め、今年で16年目となる（22～24年は休止）。

・正博氏はJA福井県奥越キク部会の部会長を務めるほか、民生委員（約9年）や勝山市の「障害者の親の会」の会長を50年近く務め、地域の福祉施設にキク栽培の指導に行くなど地域福祉にも貢献。



直売所向けの野菜